

I 2016年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2016年度大学評価結果総評】

イノベーション・マネジメント研究センターは、多くの所員が科研費等の外部資金を獲得し、質や量ともに高い研究活動と成果の公表が行われている点で高く評価できる。今後は、国際性の高い事業を企画するなど、法政大学のグローバル化への対応に配慮しながら、より一層社会に貢献していくことが期待される。

また内部質保証についても、研究所運営主体とは異なった関係者による内部質保証を充実させ、より厳格なPDCAサイクルを機能させる取り組みにも期待したい。

【2016年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】（～400字程度まで）

法政大学として平成26年度に採択されたスーパーグローバル大学等事業「スーパーグローバル大学創成支援」に基づき、当センターでも以下のような国際性の高い事業等に取り組んでいる。具体的な活動として、海外から講師を招聘し、国際セミナーや国際シンポジウムを開催した。また、外国人客員研究員を受け入れ当センター所員の指導により研究を行っている。今後、セミナーやワーキングペーパー等で研究成果を報告する予定である。

内部質保証については、定期的に運営委員会を実施し、事業内容を随時報告している。運営委員会に参加する運営委員は様々な学部の教員で構成され、学部を超えた研究所ならではの事業を実施している。今後も外部団体による点検等を実施する予定はない。

【2016年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

イノベーション・マネジメント研究センターは、昨年度に引き続き、多くの所員が科研費等の外部資金を獲得している。また14の研究プロジェクトによる活発な研究活動が行われており高く評価できる。2016年度大学評価に対応して、海外から講師を招いたシンポジウムやセミナーなども頻繁に開催されており、引き続き国際性の高い活動を継続していくことが期待される。

また、内部質保証に関しては、研究所運営主体とは異なった関係者による質保証の点検は行われていないが、運営委員会の内部での充実した報告・審議によって一定程度の対応は行われているといえよう。

II 自己点検・評価

1 内部質保証

(1) 点検・評価項目における2016年度の現状

1.1 内部質保証システム（質保証委員会等）を適切に機能させているか。

① 質保証活動に関する各種委員会は適切に活動していますか。 はい いいえ

【2016年度における質保証活動に関する各種委員会の構成、活動概要等】 ※箇条書きで記入。

- ・ 所員の構成は、所長1名、副所長1名、運営委員7名、兼担所員26名、兼任所員1名、客員研究員15名（2017年3月31日時点）。
- ・ 運営委員会を年5回実施。運営委員会では、セミナーやシンポジウム等の催事の計画や報告、新所員の委嘱、叢書の出版、その他当センターにおける運営事業全般について審議、報告する。

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
特になし。	

【この基準の大学評価】

※上記(1)～(2)の記載内容に基づき基準全体の評価を記入。

イノベーション・マネジメント研究センターの所員は、所長1名、副所長1名、運営委員7名、兼担任所員26名、兼任所員1名、客員研究員15名で構成されている。運営委員会は年5回開催されており、運営事業全般について審議、報告が適切に行われている。

研究所として、運営委員会以外にも、全所員が一同に会して研究活動全般に関して審議する場があるのかどうかについて

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

ても、明記されることが望ましい。

2 研究活動

【2017年5月時点における点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 研究所の理念・目的に基づき、研究・教育活動が適切に行われているか。

2016年度の活動状況について項目ごとに具体的に記入してください。

①研究・教育活動実績（プロジェクト、シンポジウム、セミナー等）

※2016年度に実施したプロジェクト、シンポジウム、セミナー等について、開催日、場所、テーマ、内容、参加者等の詳細を箇条書きで記入。

1 研究プロジェクト

- ①日仏労働市場の比較（奥西好夫）
- ②企業家史研究会（長谷川直哉）
- ③スポーツチーム・マネジメント研究会（荒井弘和）
- ④ブランド・マネジメント研究会（小川孔輔）
- ⑤Where do Innovations Come From? A Case Study of Biopharmaceuticals（イヨ シャオ ジャ）
- ⑥ロジスティクス・クラスター研究会（李瑞雪）
- ⑦プロスポーツ観戦者におけるチームとの関係性に関する研究（井上尊寛）
- ⑧事象アプローチによる会計ディスクロージャーの拡張（坂上学）
- ⑨消費者行動とマーケティング戦略研究会（新倉貴士）
- ⑩地域活性化研究会（木村純子）
- ⑪半導体製造装置産業における製品アーキテクチャ変遷とサプライヤー・マネジメント（田路則子）
- ⑫戦後日本における鉄道事業経営史（二階堂行宣）
- ⑬統合思考研究会（非財務情報と企業価値の関係性に関する実証分析（長谷川直哉）
- ⑭産業クラスターの知的多様性とグローバリゼーション—集合知経営の構築—（洞口治夫）

2 シンポジウム、セミナー等

- ①【共催】 国際セミナー「即！役立つ花き日持ち性向上対策の最新技術とは？
～切り花、鉢物の品質管理の先端技術をオランダのプロに学ぶ！～」
2016年6月21日 法政大学 ボアソナード・タワー26階 スカイホール
- ②【共催】「起業体験イベント Startup Weekend HOSEI」
2016年7月1日～7月3日 法政大学 ボアソナード・タワー26階 スカイホール
- ③国際シンポジウム「ビッグバンド型組織マネジメントの可能性」
2016年9月21日 法政大学 ボアソナード・タワー26階 スカイホール
- ④【協力】第2回法政大学MBAセミナー2016「模擬ワークショップと模擬授業」
2016年10月22日 法政大学 外濠校舎4階 S401～S405
- ⑤セミナー「社会を形作る音楽 —南米ベネズエラ発・音楽教育による創造性のマネジメント—」
2016年11月21日 法政大学 ボアソナード・タワー26階 スカイホール
- ⑥国際シンポジウム「起業家教育の最前線—米国、スウェーデン、日本の取り組み—」
2017年2月23日 法政大学 ボアソナード・タワー26階 スカイホール
- ⑦シンポジウム「ブランドとグローバルエコノミー —ブランド戦略の変容—」
2017年2月26日 法政大学 ボアソナード・タワー26階 スカイホール

3 公開講座

「不連続社会と向き合った企業家の光と陰—社会環境と戦略の適合性をめぐって—」

2016年10月15日、2016年11月12日、2016年12月10日 計3回

法政大学 ボアソナード・タワー25階 研究所会議室5

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

以下のサイトを参照。

①研究プロジェクト (<http://riim.ws.hosei.ac.jp/research/activities/project.html>)

②シンポジウム、セミナー等 (<http://riim.ws.hosei.ac.jp/research/activities/symposium-2.html>)

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

③公開講座 (http://riim.ws.hosei.ac.jp/research/activities/lecture.html)
②対外的に発表した研究成果（出版物、学会発表等）
<p>※2016年度に刊行した出版物（発刊日、タイトル、著者、内容等）や実施した学会発表等（学会名、開催日、開催場所、発表者、内容等）の詳細を箇条書きで記入。</p> <p>1 学術雑誌 1冊 イノベーション・マネジメント No.14</p> <p>2 研究叢書 2冊 ①メディアの循環「伝えるメカニズム」 ②価値共創時代の戦略的パートナーシップ</p> <p>3 流通産業ライブラリー研究書 1冊 地域商業の底力を探るー商業近代化からまちづくりへー</p> <p>4 ワーキングペーパー 5件 ①No.172 『戦略・事業計画の策定における非営利組織の環境対応力』 ②No.173 『A Dynamic Equilibrium Model for U-Shaped Pricing Kernels』 ③No.174 『LinkedIn: The Growth Path of the World Largest Professional Network』 ④No.175 『西山俊太郎 オーラル・ヒストリー』 ⑤No.176 『B2B プラットフォーム型流通企業に見られる流通システムのイノベーションー星利源の事例ー』</p>
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 以下のサイトを参照。 ①学術雑誌 (http://riim.ws.hosei.ac.jp/research/results/journal.html) ②研究叢書 (http://riim.ws.hosei.ac.jp/research/results/publication.html) ③ワーキングペーパー (http://riim.ws.hosei.ac.jp/research/results/working_paper.html)</p>
③研究成果に対する社会的評価（書評・論文等）
<p>※研究所のこれまでに発行した刊行物に対して 2016年度に書かれた書評（刊行物名、件数等）や 2016年度に引用された論文（論文タイトル、件数等）の詳細を箇条書きで記入。</p> <p>1 シリーズ公開講座『企業家・教育者活動でたどる日本の学校経営ー人づくりの先駆者に学ぶー』には内外の研究者や大学院生の参加を得た。</p> <p>2 所員による研究書籍は、学会、学術雑誌等で書評を得ている。なお、確認できただけで、学会発表を含め 68 件に引用されている。</p>
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 特になし。</p>
④研究所（センター）に対する外部からの組織評価（第三者評価等）
<p>（～400字程度まで）※2016年度に外部評価を受けている場合には概要を記入。外部評価を受けていない場合については、現状の取り組みや課題、今後の対応等を記入。 特に第三者評価は受けていない。年5回の運営員会を実施し、適正な運営を行う。</p>
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 特になし。</p>
⑤科研費等外部資金の応募・獲得状況
<p>※2016年度中に応募した科研費等外部資金（外部資金の名称、件数等）および2016年度中に採択を受けた科研費等外部資金（外部資金の名称、件数、金額等）を箇条書きで記入。 所員の科研費の応募は、定年延長者等の特段の事情を除き専任教員に義務付けている。2016年度に応募した2017年度の科研費の獲得は、分担者、基金、補助金を含め専任教員35人中25人であり、28件であった。 また、民間企業からの受託研究が1件継続している。</p>
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 特になし。</p>

（2）特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

内容	点検・評価項目
特になし。	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

<ul style="list-style-type: none"> 法政大学として平成 26 年度に採択されたスーパーグローバル大学等事業「スーパーグローバル大学創成支援」に基づき、英語による研究成果の公表を積極的に行う。 イノベーション・マネジメント研究センターには学術雑誌、セミナー、ワーキングペーパー等での研究成果を公表する機会が様々ある。現状、イノベーション・マネジメント研究センターには多くの客員研究員（外国人を含む）が所属しており、客員研究員にこれらの機会を有効活用してもらい、これまで以上に多くの研究成果を社会に発信する。

【この基準の大学評価】

<p>イノベーション・マネジメント研究センターの研究活動は、14 の研究プロジェクトにより国際性に優れたシンポジウム、セミナー、公開講座などが行われている。今後は、シンポジウム、セミナー等への参加者を把握して、参加人員を明記することが望ましい。</p> <p>研究成果については、学術雑誌 1 冊、研究叢書 2 冊、流通産業ライブラリー 1 冊、ワーキングペーパー 5 件が刊行されており、高く評価できる。また、研究成果に対する社会的評価は所員全体で 68 件あり、大変優れている。</p> <p>第三者評価は行われていないが、科研費等外部資金の応募・獲得状況は採択率も高く、研究センターとしての研究実績は高く評価できる。</p>

III 2016 年度における現状の課題等に対する取り組み状況

評価基準	研究活動
現状の課題・今後の対応等	<p>法政大学として平成 26 年度に採択されたスーパーグローバル大学等事業「スーパーグローバル大学創成支援」に基づき、当センターでも以下のような国際性の高い事業等に取り組む。</p> <ol style="list-style-type: none"> 英語による国際セミナーや国際シンポジウム等の実施。また、毎年実施しているビジネスプランコンテストでは、学生の英語による発表を行う。 外国人客員研究員を受け入れ、研究報告会やセミナー等を実施する。
<p>執行部による 点検・評価</p> <p>年度末 報告</p>	<ol style="list-style-type: none"> 海外から講師を招聘し、以下の国際セミナーおよび国際シンポジウムを開催した。 <ol style="list-style-type: none"> 「即！役立つ花き日持ち性向上対策の最新技術とは？-切り花、鉢物品質管理の先端技術をオランダのプロに学ぶ！-」をテーマとし、2016 年 6 月 21 日に国際セミナーを一般社団法人日本フローラルマーケティング協会との共催で開催した。お花屋さんに必要な花きの品質管理や切り花の品質管理の先端技術についての講演があり、オランダのプロから「鉢物の日持ち保証」の背景と具体的な技術を学べた。 「ビッグバンド型組織マネジメントの可能性」をテーマとし、2016 年 9 月 21 日に国際シンポジウムを開催した。「ビッグバンド型組織」の可能性について提案し、アンサンブルを重視するオーケストラの要素と、ソリストを重視するジャズコンボの要素を併せ持つビッグバンドが、果たして最強の組織として機能しうるのはかを議論した。 「起業家教育の最前線-米国、スウェーデン、日本の取り組み-」をテーマとし、2017 年 2 月 23 日に国際シンポジウムを開催した。起業家教育には、大学の技術を使って事業化させるアカデミック・スピノフの促進だけではなく、ビジネスモデルの作成や組織運営の体験をさせるものもあり、米国やスウェーデン、九州大学の先端事例を紹介しながら、効果や課題を論じた。 外国人客員研究員を受け入れ、当センター所員李瑞雪教授の指導により、「東アジアにおける物流政策の比較研究」を行っている。なお、2017 年度にはセミナーやワーキングペーパー等で研究成果を報告する予定である。

【2016 年度における現状の課題等に対する取り組み状況の評価】

イノベーション・マネジメント研究センターでは、法政大学が 2014 年に採択された「スーパーグローバル大学創成支援」
--

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

に基づき、国際性の高い事業を積極的に行うという課題に対して、国際セミナーもしくは国際シンポジウムを3件開催した。今後も継続して国際的な事業を発展させることが期待される。

研究所が抱えている多くの客員研究員（外国人を含む）による、研究所の利用を促進するという課題が提示されているが、研究所の対外的・社会的役割という観点からも、その実現が大いに期待される。

【大学評価総評】

イノベーション・マネジメント研究センターは、運営委員以外にも多くの兼任研究員、客員研究員をかかえている。研究所が、それらの研究者全体による積極的な活動を展開している点は大変評価できる。

シンポジウムやセミナーは、研究の社会的還元という観点からみて、国際的で具体的なテーマが選ばれており、大変優れた取り組みである。今後、その成果を継続して実行されることに期待したい。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。